

感想／質問	回答
企業について、まだまだ自分は無知であるということが分かった。	
サイエンスゼロ見ました！ 教員志望なので一般企業への就職は考えたことがありませんでした。この講義で聞いたお話をもとにキャリアについて見つめ直すきっかけにしたいです。よろしくお願いたします。	
英語以外によく使用される言語は何語でしょうか？	??ご質問の意味が??
就活に役立つと思い、履修しました。これからの講義が非常に楽しみです。	
今は博士までいかなければ研究職につけないのか不安です	分野にもよりますが、その傾向が特に製薬やIT系では顕著になってきています。
なぜ日本は博士号を取ろうとする人が減少しているのでしょうか？	取得後の就職と、在学時の経済的なバックアップへの不安です。ここを手当てすればもっと進学者は増加すると思います。
この授業ではこれからたくさんの方の話を聞けるのですごくためになる授業だと思った。最後のレポートではコメントをもらえるような提案書を書けるように頑張りたい。	
公務員では修士や博士を必要としないという話を聞いたことがあるのですが、本当なのでしょうか。また、研究職以外でも修士や博士の需要はありますか。	確かその傾向はあるようですが、民間が変わりだすと公務員も変わってくると思います。
博士でないと配属されない研究職が増えてきていることを初めて知った。これまで博士への進学について考えたことがなかったが、進路の選択肢の一つとして加える必要があると感じた。	
自分の専門性を追求するのももちろんだが、変化する世の中に置いていかれないようにするために、社会や身の回りのことに対して常にアンテナを張り続ける必要があると感じた。	
博士号取得に関して、私は現時点では就職後に社会人ドクターでの取得を考えている。今後の講義であるかもしてないが、修士取得後すぐ博士課程への進学と、社会人ドクターそれぞれのメリット・デメリットを知る機会が欲しい、特に現役の企業人の考えをお聞きしたい。	まず一般論として、コースで学位をとる方が早くて労力は少ないです。社会人でも学位は取れますが、一旦就職して業務に慣れ、その分野で学位を出してくれそうな研究室を探し、週何日のスクーリングにも参加し、休日も返上し、かつ家庭を持っていたりすると、大変だという話しか聞けません。Twitter調査で、「博士×進学」「博士×就職」「博士×会社」で検索すると、学生のつぶやきは「闇」、「就職できない」、「結婚できない」などネガティブ意見が70%、社会人のつぶやきは、「研究者には必須」、「とっておけばよかった」などポジティブ意見が反対に70%といったコメントが出てくるそうです。
JOB型雇用が進んだ時、新卒でも研究職に必ず就くことができるのであれば就職活動の幅が広がると感じた一方、デメリットとしてプロジェクトが終了あるいは急遽なくなった際に、新卒社員が次の仕事を探して就くことは難しいのではないかと考えた。	JOB型にもいろいろ問題があります。欧米式の典型的なJOB型は典型的な職務等級制度ですから、研究職に就けますがそれ以外になかなか進めないし、給与も高いですがそれ以上上がらない。ただ、人材の流通機能が確立しているので、その企業の方針転換や分野からの撤退があってもすぐに別の企業に転職可能です。
様々な企業の方々からお話が聞けるので楽しみです。	
幅広い企業の今働いている方のお話を聞くことができるこのような機会は滅多にないのでとても楽しみです。自分の興味のある企業について深く知りたいですし、今まで知らなかった企業にも興味を広げて選択肢を増やしていきたいです。社会について無知だと思い知ったので、まず紹介していただいた本から手に取って学んでいきたいと思います。	
日本だけ博士取得率が低いのはどうしてなのか？学費や研究費の支援といった、日本の制度が問題なのか？今のこの状況に至るまでの経緯が気になりました。そして、どのようにこの状況を改善、打開していくのか、現在の取り組みや制度についても興味を持ちました。この授業は、自分のキャリアについて考える大きなきっかけになると考えています。これから講義していただく方も多種多様な仕事、企業に勤めていらっしゃるようで、これからの講義がとても楽しみです。	今までの産業は日本の自動車業界に代表されるように「すり合わせ技術」の精緻化で進んできました。その場合、突拍子もない新しいことを発想し、始めることよりも、職人としての技術の深化の方が評価されてきたわけです。博士でなくてもこつこつと技術を積み上げたマイスター的な職人の方が評価される文化があった。一定の教育と訓練を受けた学卒や修士を若いうちに採用して社内で訓練／育成するほうがよかったです。もちろんこれからもそのような能力は必要ですが、今のように世の中が激変する中で、今までのやり方ではなく、一気に新しいことを始める能力が必要になってきます。その意識が学生にまで伝わり切っていないことが課題だと思います。
さまざまな企業の方のお話を聞けるのは非常にありがたいと思った。今回の講義だけでも知らないようなことがたくさんあり、もっと学んでいくことが必要だと感じた。	
貴重なお話ありがとうございます。就活を始める上で必要な知識を得ることができました。JOB型採用について質問したいのですが、今後就活していくうえで、何か専門的な知識を得られることを重視して就活を進めていく方がよろしいのでしょうか。また、なぜB2B企業は企業向けに事業を行う企業であるのに一般の方々に名前を広める必要があるのか教えていただきたいです。	何か専門的な知識やスキルを持っていることは重要で、それを獲得したという実績／経験が、それ以外の分野や新しい事象に挑戦するための足掛かりになります。また、B2B企業が一般人に対して名前を売る必要があるのは、その企業を知らない人の集団からは優秀な人材を集めにくいからです。誰も知らない企業に就職しようとは思いませんよね？
売上高だけでなく、研究開発投資比率から企業分析する方法を参考にしてみようと思った。	
就活を控えている中で、いまいち自分の方向性が定まっていないということで受講してみました。本講義の目的である、対応力の幅を広げるスキルを学ぶとともに、異分野の最先端事業を知ることにより視野を広げる。ということは今の自分にとって必要な部分であると感じ、学んだことを活かして就活を行いたいと思いました。現在、電気系の大学院に所属していますが、他分野への興味が一段と湧き、さらには研究職ではなく様々なポジションを経験してみたいという意欲が高まりました。研究開発費に注目することで、ほかのランキングで上位にない企業が上位に食い込んできたり、企業がどの分野に重点を置いて活動しているかということが分かった。	
売上高研究開発費比率について、初めてこの言葉を知った。新たな指標として取り入れていきたい。また、今後の講義の流れを確認した。自分に必要なものとして捉え、学んでいきたい。	

<p>BtoBtoBの話聞き、これは経済やモノ・サービスの流れの基本ではありませんが、これを日常で意識できていない自分に気づかされました。私は経済新聞を読んでいるのですが、大企業の動向についての記事が目立ちます。企業が企業にビジネスしているということは、大企業が新たな事業を始める・終わりにするに伴って、記事には載っていない関係企業にも少なからず変動を与えているということですね。業界のダイナミズムが、記事の水面下で渦巻いていると思うと、一つのニュースが面白くなりますね。</p>	
<p>グローバル化の流れと共に企業の求める人材も変化していることを理解した。企業の形態についても、何を対象にビジネスを展開しているのかで分類できることが分かった。企業を調べるときに参考にしようと思いました。</p>	
<p>博士は就職しづらいという印象があったため博士進学は考えていなかったが、博士の需要が高まっているという話から自分の就きたい業種においても高まっているか調べようと思った。</p>	
<p>BtoBの企業は普通に生活してるだけでは名前を聞くことが少ないが、数が多く就職先の候補になりうるので、自分で調べるのが大切だと思った。</p>	
<p>今まで卒業後に関して漠然としか考えたことがなかったため、この講義で自分の将来についてしっかりと考えたいと思う</p>	
<p>有価証券報告書を見て、興味のある企業が何に注力しているのかを見極める助けになることがわかりました。興味のある企業について調べてみようと思います。</p>	
<p>ただ業績を見るのと、業績に対して研究費につやしている割合で企業を見るのとでは印象が大きく変わりました。企業分析に活かしたいと思いました。</p>	
<p>就活する際に有価証券報告書を参考に会社を調べて行きたいと思った。</p>	
<p>興味ある企業ということで楽天の有価証券報告書を見てきました。理由は現在の楽天経済圏に甘えることなく、携帯事業に1年間通話料無料という大胆な作戦で乗り込んだところにごく興味をひかれたからです。セグメント情報を見ることで、どのような事業をしているのか詳細まで知ることができました。また、従業員情報を見ることで、平均勤続年数や平均年齢を知ることが出来ました。同じ業界の企業と比べると多少低かったです。今回先生がおっしゃっていた、売上高研究開発投資比率のところは見落としていたので講義後に確認しようと思いました。有価証券報告書はぱっと見難しく、到底すべては理解できませんでした。しかし、これは正直に書かなければいけないものなので、読みこなせば就職に大きく役立つものだと感じました。</p>	
<p>有価証券報告書の見方についてがすごくためになりましたIT企業ってどの分野に属するのか知りたいです。</p>	<p>どの分野・・というカテゴリーに関しては、時代時代が変わっていきまよね。パナソニックやNECは未だに「電気機器」に分類されていますが、やっていることはかなり変わってきています。ソフトバンクは「情報通信」ですが、楽天は「サービス」と一概に言えません。</p>
<p>これからの世界の動きを予想して、将来を考えなければならないと思った。グローバル社会に向けての英語力、JOB型雇用に向けての専門知識・技術を身に付けていかなければならないと思った。企業がどこに向けて製品を開発しているのか、見極めることが大切だと思った。</p>	
<p>この講義を受けるまで「有価証券報告書」というものを知らなかった。その会社を知るために重要なものになると分かったので、うまく活用していきたい。</p>	
<p>今回の授業で、修了したら就職しようと思っていましたが、博士に進むのもありなんだと選択肢が増えました。また、研究職に就職したいと思っていたので、それぞれの会社の研究開発に対する投資の割合をしっかりと調べることの大切さを学びました。</p>	
<p>研究がどのようにして商品、事業となっていくのか、その具体的段階や問題点などが理解できて興味深かった。講義を通して知財権関係が頻繁に出てたのでその重要性も関心が持った。研究開発投資比率は説明を聞くと当たり前に必要な基準であるが今まで知らなかったので大変有益になった。</p>	
<p>企業の研究力としての力を見る方法を知ることができたことが今日得た中で一番大きかった。 <質問> 企業初回の際に資本金を上げて紹介していたが、資本金の大小と企業力研究力とはどのような関係があるのか疑問に感じた。</p>	<p>資本金はその企業の大きさや体力を表します。同じ業種でも資本金が大きいと対外的に会社の信用力が大きいことを意味します。つまり株主に返還する必要のない、安心して事業に投入できるお金を多く持っていることを表します。</p>
<p>イノベーションやリーダーシップ、企業、開発など広範囲に渡るお話や企業について知らないことが多いのでこの講義で沢山のことが知ることができたので大いに参考になると感じた。</p>	
<p>有価証券報告書の読み方を分かりやすく解説して頂けてよい勉強になりました。</p>	
<p>研究開発投資比率対売上高等の今まで見えていなかった視点での企業分析を知れたので大変ためになった。</p>	

<p>今現在、研究開発の仕事に就職を考えていたが、博士課程を取得しないと厳しいということで、自分がこのまま博士に進学して研究をしたいのか、それとも研究職以外での就職でも良いのかを自己分析などを通して見極めていきたいと感じた。また、今まで気になる企業などについてそのホームページでしか給料や売り上げ高などについての情報を得ていなかったが、有価証券報告書では企業のそのまのデータが載っているの、こちらの方も参考に企業調べをしていきたいと思った。</p>	
<p>有価証券報告書に関して注目することの必要性が分かった。また自分がBtoB、BtoCどこに興味があるのかを考えていき、たい、少し疑問に感じたのは大きい企業は上場しているイメージだったので、サントリーが上場していないのが意外でした。上場企業であるかないかの違いが気になりました。</p>	<p>上場する必要があるのは株式を発行して資本金を得る必要があるからです。資本金は株主に返却する必要のないお金なので、自由に事業に投資することができるわけです。でも、もともとお金をたくさん持っているのであれば、外部から資金調達する必要はないですね。株主は時によると株主総会を通じて会社の経営に「口出し」することができますから、経営としては「うとうしい」面もあるわけです。経営陣がしっかりしており、資金も潤沢にあれば、何も株式公開して外部資金を集める必要はありません。サントリーがオーナー企業であり続けるのは、資金繰りに困っていないからです。</p>
<p>同じような業界の企業であっても、収入のうち研究開発にどれだけの予算を割くかという「研究開発比率」の大きさには大きな違いがあるということがわかった。このことから、企業によって研究開発にどれだけの力を注いでいるか、という点を読み取れる。自分が就職する際に、上記のような点からも企業を評価することにより、企業側と就職する人のミスマッチを防ぐことができると考えた。</p>	
<p>自分がどのような職種に向いているのかまだわからないので早めに適正を見つけたいと思いました。バイオ系の研究を大学院で行っているため、食品関係の会社や化学系の会社を見ていましたが、ITなどの他ジャンルの企業もインターンシップに参加して視野を広げたいと思いました。</p>	
<p>講義の最初から10分程度がネットワーク障害でうまく聞き取れませんでした。講義の詳細に関する資料だけでなく、録画をアップロードしてほしいです。資料にコメントが付帯していて、後から確認しやすいですが、一部が消えている（おそらくスライドのアニメーション部分）のが残念です。</p>	<p>第1講の私の講義と、第2講の宗像さんの講義に関してはビデオを撮っており、オンデマンドで再視聴できます。ご希望があればP h Dリクルート室までメールでお申し出ください。他の講師に関してはビデオ撮りの許可が出れば同様に残しておきます。</p>
<p>企業に対しての情報収集は四季報を見るなどしかしていなかったが、研究という観点から見た場合は研究開発費も重要な指標であることがわかった。各企業の有価証券報告書をよく見て情報を集めていきたいと思う。</p>	
<p>自分の知らない様々な会社があり、その会社から会社への商業形態、例えばBtoBやBtoCなどといったものの意味について理解することができました。大学では多方面に研究を行っているけれどもメーカーでは製品化のための研究を分散収束させるため、自分が会社を選ぶうえでやりたいことをマッチさせることが大切なのかなと思いました。また、有価証券報告書からの企業研究という使い方があることに驚きました。学びになった講義でした。ありがとうございました。</p>	
<p>この講義では実際に企業の人からお話を聞けるということで、非常に楽しみです。B2BやB2Cなど企業がどのようなことをしているかを自分で調べておくことが重要だということが分かりました。また有価証券報告書を読むことでその企業がどのような傾向なのかを把握することの重要性が分かりました。</p>	
<p>有価証券報告書によって企業から得られる情報が自分が想定していたものよりかなり多いことに驚きました。修士1年でこれから研究を進めていく者として実際の企業での研究の方法や資金などをこういったやり方で調べられるのは非常に重要です。自分で複数の企業を調べて比較し、インターンや就職活動などに活かしたいと思います。それと、アンケートにおいて修士1年の人のうち博士への進学を考えている人はだいぶ少なかったのですが、多くの人は博士まで行くメリットがそこまで無いと思っているかと思います。また研究内容によって博士まで行かないと研究の時間が足りない人もいれば修士の時点で十分に時間が取れる人もいます。専門性が高い研究だと修士だけでは基礎が追いつかないので博士まで行く方が多い印象です。</p>	<p>そうですね。日本はずっと島国で、アイソレートされた文化の中で発展してきました。そのため、世界がある程度動いても国内だけであれば、国内のスタンダードで対処できてきました。ただ、これからグローバル化の波は否応なしに押し寄せてきます。日本企業もどんどんグローバルスタンダードへと舵を切り始めています。それに最も情報的に乗り遅れているのが学生や教員の皆さんの頭の中です。「ファクトフルネス」読んでください。大人の皆さんの常識は30年前のご自身が学校で習った古い常識にとらわれていることが多いです。世の中、すごいスピードで変化しています。これからのグローバルな世界で研究開発部門で通用するのは「博士」です。</p>
<p>今後の研究や技術がどういった方向へ向かっていくのかを広い視野と新しい情報を取り入れていく必要があるととても感じました。また企業研究をするにあたって、データの見方の指標を知ることができました。</p>	
<p>自分は就職か院進で悩んだ結果、やりたいことを見つけるために院進を選びました。最近就活について悩んでいて、企業について調べる時にどのようにしらべるのか、またそもそもどのような企業があるのか気になっており、今回この講義を聴講できてとても良かったです。また、就活だけでなく、最近はグローバル化がすすんでいるので、就職だけでなく、博士課程に行く進路も少し考えてみようと思ひ、視野を広く進路選択を行っていききたいと思いました。</p>	
<p>企業研究の際、有価証券報告書を見るということは発想になかったの、現在検討中の企業の報告書を読んでみようと思う。</p>	
<p>会社を分析する手段として有価証券報告書があり、またそれをどのようにして読み解くべきかを知ることができたことは非常に貴重な経験となった。今後自分のキャリアを考えるにあたって、今日学んだことを活かして企業分析を進めたい。</p>	

<p>世の中が激変しているということは、COVID-19の影響を考えると、ここ一年で劇的に変化したと改めて思った。また、企業がSDG sに取り組んでいると宣言していることや、昨日22日に、多くの世界的アーティストがアースデイであることをsnsで発信しており、地球環境について世界中で取り組むべき課題であることを実感させられた。「有価証券報告書」については、昨年就職活動を行っていたが、全く目を通していなかった。これから企業研究を行うにあたって、活用していきたい。売上高に対する研究開発比率は、製薬メーカーで高いという特徴が分かった。私の興味ある業界は食品から製薬、また広告等多岐にわたるので、実際にプロットして研究開発動向を確認しようと思った。異なる分野の講師の方々の話を聴講することは貴重なことであるので、この講義を通して、多様な物の見方・考え方を吸収し、ジェネリックススキルを習得したい。</p>	
<p>博士の採用が進んでいるので就職だけでなく、博士課程に進むことも視野に入れなければならないと感じた。有価証券報告書にはその企業のホームページに書かれていない具体的な内容が書かれているので、就職の参考にしようと思う。</p>	
<p>講演していただける方が、各業界の素晴らしい方ばかりでとても驚くとともに、一つ一つの講演を大事に聴講したい。有価証券報告の見方や企業についてなど、学生にとってはこれ以上ない素晴らしい講義でした。</p>	
<p>有価証券報告書の見方について勉強になりました。今3つくらいの分野で数社ずつ候補を決めています。それぞれの企業の強みや違いを知るために使いたいです。</p>	
<p>就職、企業というものをもう少し近く感じるために本講義を受けました。インターンシップ含めてこれから仕事することに意識を向けていく必要のある中で、今回の企業の有価証券報告書などの分析方法を明確に学べたことで、理解につながったと思います。</p>	
<p>大学で私たちが行っている研究とは少し異なり、産業や企業においては何を指すのか、世界はどの様に変化していくのかという様々な観点からの先見の明と知識が必要であるということがわかった。自身の世界や世間への知識を深めるため何かしらの本を読んでみようと思った。</p>	
<p>企業の種類と分析に関する知識を学んで、研究開発の件数費の算出の仕方と有価証券報告書の読み方が始めて知りました。今後の講義も楽しみです。</p>	
<p>・これまで学んできたこと、また修士2年間で新たに学ぶことを自分のキャリア構築やどのように社会に役立てるのかを考えるために、この講義で様々な分野で活躍している講師の方々の話を聴いて参考にしていきたいです。・企業がどの部門に力を入れているのかを、各部門にあてる費用を調べて、就活の際に参考にしたいです。・就職活動をするにあたって、確かなデータ(有価証券報告書など)を自分で集め、企業の実態を研究することが大切であると学びました。</p>	
<p>企業のことなどいろいろ学べてとても良かったです。まだ、自分には知らないことが多すぎると感じました。これからの講義を通して自分が納得できる就活、就職ができるように頑張りたいです。実際の生の声が聞けるといのはとてもありがたいです。</p>	
<p>企業について考えようと思いつつ、何もできていなかったのですが、とても参考になりました。これからの企業の方々の話を聞いて、自分のキャリアについて十分に考えたいと思います。</p>	
<p>そもそも企業とはどういうものかというところで、利益のために運営しているのではなく、製品やサービスで社会貢献を目的としなければ企業として存続することすら難しいということが分かりました。また、企業の種類として企業から企業、企業から一般消費者、企業から政府などの公的機関に向けてなど、単に企業と一言で言っても対象によって必要な資本金や従業員数など様々な規模の企業が存在しているということが分かりました。</p>	
<p>本日の講義ありがとうございました。私は現在、就職活動を始めたばかりです。一方、博士課程に進学し研究を続けることも選択肢の一つとして考えています。そのような背景の中で今回の講義は大変に参考になるものでした。今回の講義を通して、自分の知らない企業や社会の仕組みについて知ることができました。自分が就職活動の視野に入れている企業はb2cの企業が多く、b2bの企業については全く意識していませんでした。それは単純に知識としてそのような企業を知らないことが原因だと思います。知らないことにより選択肢を失うことは非常に惜しいのでb2b企業についても調べていこうと思いました。また有価証券報告書により普段知り得ない情報を得ることができると知りました。見方については難しく講義内では理解できなかったので復習及び自主学習して自分の興味のある企業について分析していきたいです。</p>	

<p>修士1年になって就職活動を意識するようになりましたがどのような企業があり何を見て自分にしている企業かを判断すればいいかわかりませんでした、B2B、B2Cなど基本的なことや有価証券報告書というものを知ることができてとても勉強になりました。これを期に自分でも自分がどのような企業に就職したいのか深く考えてみようと思います。次回以降様々な企業の方の実体験に基づくお話を聞けるのがとても楽しみです。</p>	
<p>企業に対する見方やこれからの学生のあり方について知ることができて良かったです。就活を考えると、よりIR等を通して企業に対して積極的に考えることが必要だと思った。どうしても受け身の部分があるので改めなければならない。また、リアルタイム型のアンケートを使う講義は今までなかったので、とても新鮮で面白い機能なので、今後も活用しても良いと思う。</p>	
<p>有価証券報告書を企業選択に役立てたいと考えた。有価証券法覚書のページ構成は企業によらず統一されているか気になった。</p>	<p>有価証券報告書には記載事項が決まっています。その通りに記載する必要があり、企業によっては濃淡ありますが、ほぼ同じです。ただ、総合社のように理系を採用するけれど、自体で研究開発を行っていないところは【研究開発】のところは「該当事項なし」と記載されていたり、また、会計基準が国内基準か国際会計基準かで数字が若干違ってきたりもします。でも本質には同じです。</p>
<p>就職先を考える上で企業研究、分析は必須になるが具体的には何をどう研究したら良いのか、があまりよくわかっていなかったので具体的に企業分析をする方法がわかる良い機会になった。また、博士課程への進学は全く考えていなかったため、今回の講義では博士課程への進学を可能性の1つに入れた上での自分のキャリアを見直す機会になりとても有意義でした。</p>	
<p>企業形態 (btob, btocなど) について具体的な例とともに知ることができた。また、企業を知る一つの方法として、IR及びCSR等の情報をもとに照らし合わせることで様々な観点から企業を知ることができると感じ、有意義に感じた。</p>	
<p>b2bや有価証券報告書など、知らない言葉や知識が数多くあり、大変勉強になった。自分は就活やキャリアについてまだ何も知らないの、この講義を通してさらに多くの知識を身につけていきたい。</p>	
<p>有価証券報告書については全く知らなかったの有用な情報が得られてとてもよかった。</p>	
<p>本日の講義を受講する前はずっと食品企業で研究または開発に関わりたと思っていた。今でもその考えは変わらず、興味をもつ企業も変わらないが、先生が仰った「あまり意固地にならず今後の人生を考えてほしい」という言葉を聞いて、自分が現在行っている研究や出身学部で固執して企業調べを行ったり、就職活動の準備を行う必要は無いと思うことができた。その業界へのこだわりや熱意を持つことも大切であると思うが、度が過ぎると視野が狭まってしまうことも起こるのではないかと感じた。</p>	
<p>BtoBやBtoC、BtoGなどの用語について理解深めることができた。海外に比べ、日本があまり博士を排出していないことに、日本のレベル学術におけるレベルの低さを強く感じた。有価証券のの記事について企業は嘘をつくことができないということを知り、有価証券への感心が高まった。</p>	
<p>挙げられていた参考文献や有価証券報告書の知識は就職活動に活用したいと思いました。</p>	
<p>ANAという飛行機で有名な会社だと思っていたのに、「飛行機を使わなくてもどんな場所にも行けるような方法」を考えてるというような、飛行機が無くなってしまふような未来について考えて、一見反対のことをして、ものすごく話が聞きたくなりました。人間は、人間の機能を増やすようになっていくって言われて、ワクワクしました。人が人以上の存在を目指していき、それによって市場も変化していくということで、未来が楽しみな感じがしました。自分の「この会社はこんなことを研究開発している会社だ！」という主観的なイメージだけに頼らず、有価証券報告書を用いて、実際に、会社がどのような研究分野に注力しているのか、もしかしたら、自分の興味のある分野への研究へのお金に投資が落ちてる可能性もあると思うので、有価証券報告書見てみたい。</p>	
<p>本日の講義は、企業の種類と分析の内容だったが、まず企業の種類としてBtoB,Btoc,BtoGの大きく3種類について知ることができた。私たちが普段目にするような企業は、BtoCやBtoGに含まれるが、BtoBについても知られていないだけで、大きな企業が多くあることを知ることができた。私は理系のM1であるので、今後の就活時にはBtoB企業もしっかりと把握していく必要がある。そのため、この講義を通して、積極的に今まで知ることのなかった企業について調査していきたいと思った。また、有価証券報告書に関しても、その企業がどれだけ研究費に費やしているのかといった分析を行ううえで非常に重要であることが分かり、就活時には企業選びの一つの指標として活用していこうと思った。</p>	

<p>本日の授業では、現在、企業がどのような人材を欲しているのか。日本で博士課程に進学する人はどのくらいか、自分たちが今何を求められているのかなど企業に採用に関する貴重な情報を受け取ったり、自分がこれからどういう行動を取っていけばいいかということを考えるきっかけにもなりました。大変有意義な授業でした。一つ質問ですが、自分が今研究している分野とはまったく違う職業に就いた方がどのくらいいらっしゃるのでしょうか。またその方々は今もその仕事を続けているのでしょうか。講義ですでお話していたらすみません。</p>	<p>専門分野以外に就職した人の割合というのはちょっと判りません。北大の時に400名くらいの博士を産業界に送り出しましたが、その企業の中心的な事業とは異なる専門性の博士が就職する事例は、数%くらいあるのではないのでしょうか。薬学博士（薬剤合成）→ソニー、工学博士（金属工学）→ブリヂストン、理学博士（素粒子理論）→ブリヂストン、水産学博士（昆布増殖）→日本製鉄、などなど・・・</p>
<p>有価証券報告書という言葉が今回の講義で初めて耳にしましたが、企業毎の研究開発費比率や経常利益が?偽りなく記載されていることから自分の興味のある複数の企業を比較できることが非常に興味深かったです。企業の中には事業や領域別の売上が記載されており、どういった事業に強いのか、今まで知らなかった企業の側面を理解できることを考えると、面白そうだと思います。早速調べてみたいです。1点気になったことがあります。同じバイオ系の企業の研究や開発といっても製薬会社や食品、農業、飲料など多岐に渡りますが、企業や業種によって安全性などの観点から使用する材料や製法にかかる規制はどのようにして制定されるのでしょうか?また、その規制は年度毎に変化することはあるのでしょうか?</p>	<p>安全性などの観点からの規制はいろいろあります。食品・医薬品・化粧品などの分野では農林水産省/厚生労働省のいろいろな規制や取り決めがありますし、業界が主体となつての自主規制もあります。もちろん時代の変化により変わりますし、新しい素材が出てきた時にも変更されたりします。</p>
<p>事業別研究開発費の注力具合を見ることでその企業のこれからの動向がつかみやすくなれると知れた、ぜひ自分の就職先選びの際に活用していきたい。また、BtoBやBtoCなど単語と意味ぐらひは知っているものの実態についてはよく理解できていなかったで、今回の具体例を交えた説明は分かりやすかった。日本の博士人数が減少していることは知っていたが、これは少子化の影響が大きいのではないかなと考えていた、今回の授業途中で行ったアンケート調査によって回答者の中に積極的な博士後期課程への進学希望者がいないとわかり現実を知らされた気がした。講義を通して企業、就職というものへの正しい理解を深めたい。</p>	
<p>アカデミアへの就職を希望しているが、企業がどのようなものを学びたい。</p>	
<p>自分の行っている研究について、また専門の研究でなくても、自分のスキルがどのように社会の役に立つのか常に念頭において自分の将来を考えようと思った。近年気候変動などの地球環境問題の解決に貢献する企業が増えており、自分の現在行っている地球科学専門の研究自体もどのように関係していくか、幅広い視野から考えていく必要があると感じた。</p>	
<p>日本の博士課程排出量・排出率は低下傾向にある。この背景には、日本は博士課程を必要としているが、大学院生に対する支援制度等が、他の国より弱いと言われている。その結果、埋めきれないギャップが、日本の大学生への進路の幅を狭めている要因の1つであると考えられる。また、本講義では、一般企業等も日本の博士学生を欲していると聞き、学部生時代の就職活動への説明と大きな違いに驚いた。時代の変化か、国や企業の方向性の変化かは現時点で推測は出来ない。結局、国が必要とする学生層を明確化する必要があるのだろう。①多彩な人材から選抜出来る大学生 ②即戦力となりうる修士以上の学生 国も企業も費用等の財政負担や、様々な問題を抱えていると思う。故に、国が総力を上げて、修士以上の学生への支援制度の整備が必要となる。世の中の流れは非常に難しく、大変であると感じた。</p>	
<p>有価証券報告書から研究動向を読み解くための方法の具体的説明を聞いたのはよかった。</p>	
<p>企業の種類に関しては、既知のことが多かったが、企業分析について有価証券報告書を閲覧して分析するという考え方は持っていなかったで、今後活用したいと思います。</p>	
<p>質問 イントロダクションのところで、NECの中央研究所は博士課程修士を求めているというお話がありましたが、技術職で博士課程の学生が求められるのは、企業が携わる事業に関連した研究分野のスキルありきの話なのではないでしょうか。感想 研究に携わる職務で入社した後でも、長いキャリアを見れば研究志向か経営志向のどちらにも向かう可能性があるということを知り、求められるスキルは研究関連のことばかりではないのだと感じました。修士の時に就職活動に向けて企業研究を行っていた時期がありましたが、売上高研究開発費比率というのは確認したことがありませんでした。次に就活に向けて準備を行う際に活用していきたいと思いました。</p>	<p>一般的にNECのような大手IT系企業のコーポレート研究所（中央研究所）においては、その企業全体の将来を担うようなテーマの研究を行います。講義でも述べたように、NECも将来的な未来技術を研究するコーポレート研究所と、現業の事業/製品やサービスを先鋭化する事業部研究所の両方があります。事業部研のほうは事業推進に必要な技術の集約が中心で、そこにはマンパワーとして修士以下の人たちも多く採用されますが、未来を研究するコーポレート研では、優秀な洞察力、とびぬけた発想など、博士特有の能力を要望されるからだと思います。</p>
<p>どうめです！初回講義ありがとうございました 受講者が100人以上いるとは思ってなかったので驚きました。院生会、活発になりそうですね！</p>	
<p>社会の発展には、科学技術の進歩が欠かせないと思う。そのためには、研究をしてくれる志の高い人が増えれば捗るかもしれない。その一方で、研究は大学や国立の研究機関などだけでなく、企業でも十分に行われているのは事実で、博士の将来の進路も様々である。</p>	

It was a little bit hard when different Japanese industries have been mentioned at B2B-B2C-B2G part. Some of companies, mentioned in examples are not well known outside of Japan. But overall it was understandable.